

平成26年度第1回南部地域政策総合会議 会議概要

1 開催日時

平成26年9月8日（月）午後2時から午後4時

2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室

3 出席者

(1) 委員 20名（6名欠席）

① 地域住民代表委員 13名

青木委員 石本委員 尾崎委員 小林委員 佐々木委員 榊野委員

富沢委員 橋本委員 林委員 平井委員 町田委員 松田委員 和田委員

② 県委員 1名

鎌田南部総合県民局長

(2) 管内市町長 4名

岩浅阿南市長 福井牟岐町長 影治美波町長 前田海陽町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

①平成25年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価について

②「徳島県南部圏域振興計画」について

(3) 意見交換

(4) 閉会

5 配付資料

徳島県南部地域政策総合会議設置要綱

徳島県南部地域政策総合会議委員名簿

平成26年度第1回南部地域政策総合会議配席図

資料1 平成25年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（概要）

資料2 平成26年度徳島県南部地域政策総合会議 計画推進評価部会報告

資料3 徳島県南部圏域振興計画変更（案）

資料4 平成26年度南部圏域課題解決プラン実施計画変更（案）

資料5 徳島県南部圏域振興計画（案）

資料6 平成26年度南部圏域課題解決プラン実施計画（案）

< 発言概要 >

（事務局）

それでは、ただ今から、平成26年度第1回南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、13名の地域住民代表委員及び計画推進評価部会から石田部会長さんに御出席いただいております。

また、阿南市長さんと3名の地元町長さんに御出席頂いております。

そして、南部総合県民局を担当しております、塩屋政策監補が出席しております。

「徳島県南部地域政策総合会議設置要綱」の規定により、今後の議事進行は鎌田南部総合県民局長が行います。

（局長）

南部総合県民局長の鎌田でございます。

本日は、委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

さて、南部総合県民局におきましては、「徳島県南部圏域振興計画」及び、平成26年度末を目標年度とした「南部圏域課題解決プラン実施計画」に基づき、委員の皆様からいただきました御意見を踏まえ、地域の皆様と連携・協働しながら、各種取り組みを推進してまいりました。

本日は、去る7月7日に、「平成25年度南部圏域課題解決プランの実施結果」について、計画

推進評価部会において、評価いただいておりますので、「評価結果」を石田計画推進評価部会長から御報告をいただき、その後、「徳島県南部圏域振興計画」と「課題解決プラン」の変更案について御説明いたします。

その後、委員の皆様から「徳島県南部圏域振興計画」に対する御意見及び「南部圏域の振興」に向けた御意見をいただきたいと思いますと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

なお、本日の議事内容につきましては、委員名を除き、県のホームページで後日公開する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の議題1の『平成25年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価』についてでございます。

資料1・2によりまして、計画推進評価部会の石田部会長からお願いします。

(部会長)

資料1・2により「計画推進評価部会」の報告

(局長)

ありがとうございました。

次に議題2の「徳島県南部圏域振興計画」につきまして、事務局から説明をお願いします。

(経営企画部)

資料3・4により南部圏域振興計画(案)、課題解決プラン実施計画(案)の説明。

(局長)

それでは、意見交換に入らせていただきます。どなたからでも結構ですので、御発言をお願いします。

(A委員)

若者の視点でお話しをさせていただきたい。8月に牟岐少年自然の家で開催されたTokushima英語村について、今まさに日本はグローバル化時代そして世界共通語は英語。まさに英語は実学として使える通用する英語力を学生である若い時から学ぶという視点で今回のTokushima英語村は行われたとお聞きしております。大変すごいことございまして、英語を学びに行くには高額な費用を払って海外へ行くことが基本でございまして、しかし今回のTokushima英語村は国内留学という視点ですね。知事も年頭の会見でおっしゃっていましたが、この国内留学という視点は非常に素晴らしいと思っております。是非ともこのTokushima英語村を次年度、新規施策に付け加えていただいておりますこのTokushima英語村、国内留学は牟岐、Tokushima英語村ということをもっと、今回行われた取り組みを検証していただいて、若者、社会人のクラスなど、また地域住民との英語オンリーふれあい会議とか、またサテライトオフィスの若い人材とコラボレーションすれば新しい化学反応が生まれるのではないかと考えております。今回非常によかったと思うのは、フェイスブック等のSNSを活用してリアルタイムに映像が発信できていたことだと考えております。今現在617の「いいね」が押されているということで、今回の英語村に関してSNSの使い方が上手だったと感じております。この国内留学と地域交流プラス体験というものが、これからの地域のキーワードであると考えております。どうかその視点について、知事に今回の英語村の総括と今後の展望についてお伺いしたい。

もう一点は大きな視点で御発言させていただきます。大きな問題として人口減少化、少子高齢化についてでございます。中央公論で出された本と日本創成会議人口減少化検討分科会で出された結果に誰もが驚いたと感じております。やはりこのデータ、未来を変えていくためには課題解決方法は何か、県南部、西部はまったなしの少子高齢化若者世代の意見を入れて各地域の特性に合わせた県南部の地域環境にもっともっと分析を入れ、若者が結婚し子どもを産み育てやすい環境をつくる。そういう若者視点を中心に意見を集約して地域の現地経済戦略プラスアルファ、地域の拠点作りに繋げていただきたい。やはりそうは言ってもなかなか人の流れ、若者に魅力ある地域の拠点都市の創出のためには、ここに人、もの、資金の投資が必要であると考えております。

そこで、この南部地域に若者世代を中心とした課題解決の検討委員会もしくは部会を作っただいて、是非とも県南部地域の若者、そして県西部の若者、県全体の未来を見据える徳島創世会議なるプロジェクトチームをつくっていただいて課題解決先進県とくしまとして是非とも全国に発信していただきたい。この視点についても飯泉知事からお伺いしたい。

(B 委員)

人が少なくなっていることは明らかで、これ以上は商売が成り立たないところまで来ている。

移住者フェアに行ってきましたが、ダントツは香川でした。ほとんどの人が香川に流れていた。その中で美波町は町村部門中ではダントツでした。驚いたのは皆さん仕事を持っていて、その人達が美波町を指名していただいたことがうれしかった。平成27年度からの新しい計画では移住に力を入れてもらって、人づくりではなく人増やしに変更してもらいたいと思います。

それと若い人が空き家を探していて、私もたくさんピックアップしていますが住めません。水回りが最悪、掃除ができていないということも。個人の力では限界を超えているところに来ている。サテライトオフィスの「あわえ」さんがこういうことに取り組んでいるので、力を借りながら一緒にやれたらいいなと思っています。

それとお試し施設について、7組の希望者が11月以降に見に来るのですが、それまでにピックアップしている空き家を清掃できるか、見せられる状態まで持って行けるかどうか心配です。

人がいなければ何もできないので、これから力を入れていただきたい。

(C 委員)

2点申し上げたいと思います。

一点目はTokushima英語村について、私は胃袋をつかまえるということで、10日間ずっと関わらせていただきました。企画は若い人がしっかりしていただいて、私たち経験を積んだものが、それを支えるのだということがよく分かりました。そのためにも、もう一年牟岐町で開催していただいて、その後は牟岐町単独で全国の若者を呼んで、徳島県から人材を全国に派遣するというような、住民と行政が力を合わせて、行政だけでは無理、動くのは住民ボランティアなんです。それで、お金儲けができなければダメですので、それを町全体でおこなって、全国の子どもたちが牟岐町で英語を習う、英語を習うのではなく英語を通じた人づくり、そういう風に感じました。2週間で英語をしゃべれるのは単語だけ、見よう見まねで通じます。それでいいと思います。勉強は学校でやりながら英会話をする。そういう心づもりを牟岐町から発信できたらいいと思います。もう一回だけ牟岐でやらせてください。

もう一点は、地域医療の方向からお話しさせていただきます。

県立海部病院は改築に向かっています。そこに安全安心で暮らせるためには、介護サービス、医療関係者が必要。国の方針も在宅にきなさいと方針が変わってきています。そのためにも、みんなが手を結ばないといけない。海部病院から家庭に戻るためにも、地域の保健師さんや福祉関係者すべてが手を結ばないと暮らしていけないと思います。ここに美波町、牟岐町、海陽町のトップがいらっしやいます。その3者が自分の町はもちろんのこと海部郡をどうしようかということで手を結んでいただいて、それぞれの公立病院の役割分担をしっかりと県の後押しでやっていただければと思います。海部病院には、片岡病院事業管理者が長期療養型の病床をとるとお約束してくれたのですが、設計図を見ると入り込んでいないのです。そういうところも絶対に必要になってきます。そこを県がしなければいけないと思います。

先生の確保は住民ががんばりますので、財政については、牟岐町は厳しいと思います。

それと、海部病院の跡地を使わせてもらいたいのです。いろいろな業種を入れたらいいと思います。民泊もキャパが小さいので150人以上は受け入れできない。そういうこともあって町の中心にある海部病院の跡地を宿泊場所や物産館などに使わせてもらえるように、県の後押しをお願いしたい。

(D 委員)

ビジターセンターを作ってもらえという声をいただくことがあります。那賀町は他の地域に比べ山間部が多く、緑の量、阿南の海岸から山頂までの起伏にも富み、自然の豊かさにおいて引けをとるものではありません。那賀奥の自然を求める登山観光客は増えているのではないかと強く感じております。剣山が国定公園指定50周年記念を迎え、南剣の玄関口として地域の魅力発信や自然環境の保護活動の拠点として那賀町四季美谷温泉、あるいは当温泉が管理するファガスの森高城を提案し、設置を強く要望いたします。

もう一点、国道195号線長安口ダム周辺の改良工事を進めていただいております。最近長安口ダム堆砂の関係でダンプカーがたくさん通行しております。未改良地区、若干狭いところがございまして、その改良の計画はどうなっているかお伺いしたいと思います。そして、早期に着工していただきたいと思っています。そして、193号線に狭いところがございまして、4tトラックが対向できません。改良が難しいのであれば、何という名前か分かりませんが、対向車の接近がわか

る信号機の設置をお願いできないでしょうか。

(E 委員)

農業関係で申し上げます。

T P Pとか農業改革が大きな問題となっております。

新規就農者の営農指導については、新規就農者が選ぶ作物によって成功するか否か大きな問題となっております。特に新規就農者は最初から失敗が許されない。農協が協力してやっていきたい。冬場は菜の花、かいふエコ耕畜連携事業に力を入れて、菜の花をかなりやっていると。そうすれば、かなりの量が販売できる。しかも農家の作業が簡単ですむ。菜の花に力を入れて既に販売をしております。耕作放棄地の解消については、アグリサポート事業で耕作地を3圃場やっておる訳なんですけど、毎年依頼者が増えてきております。これも新規就農者が、この後を受け継いでくれることを考えておったのですが、米の価格が今年は昨年と比べて30キロあたり2千円は安い。この状況では、耕作放棄地に新規就農者が来ていただいても経営が難しい。米の価格をなんとかしないといけないのですが、一人あたりの食べる量がだんだん減っているのも非常に悩みが深いところですが、行政、支援センターと相談しながら、米作りの差別化した栽培方法をいろいろやっていきたいので御指導いただきたい。

(F 委員)

先日の台風11号12号では知事さんをはじめみなさん大変だったと思いますが、私の住んでいる阿南市におきましても田んぼが全部浸かりました。今日、籾すりをしたところ、全部2等米。米価が下がっている状況で、2等米、3等米がほとんどとなると、とてもやっていけない。後継者に引き継ぐことは難しい状況です。それというのも、河川の整備が遅れていて、田が浸かるのはどうしようもないと言われればそれまでなのですが、生活道路がひとつもなくなるということについては、台風11号12号にかかわらず、この頃の雨が大きいものですから、今年に入りましても5回ぐらい浸かっています。やはり岡川と畑田川の改修について迅速に進めていってもらわなければ、高齢化社会を迎えて、病人が出た場合にどうしようもない状態です。先日の雨で用水路にトラックが突っ込んで運転席が出ていて助かったのですが、人身事故と災害は紙一重ではないかと思っています。是非河川の整備を早急に進めていただきたいと思っています。

次に、農業を取り巻く環境があまりにも厳しいので、ブランド化について、他の品物を、生活できるようなことを農家にアドバイスするような部署があったらいいと思っています。

3点目といたしましては、昨年、日本女性会議を阿南で開催させていただきました。盛会の内に終わったのですが、阿南市では11月9日にアフター事業を計画しておりますが、県の方でもこのような大きな会が成功裏に終わった後の女性政策について、どのように取り組んでいくのかお伺いしたい。

(G 委員)

木材の増産に取り組んでいます。那賀町でも林業マスタープランで目標値を定め、いろいろ取り組みをしておりますが、そのためには人や機械など大切なものがありますが、幸い昨年那賀町では「山武者」という若者の会ができて、三十数名が林業で働いています。非常に頼もしく思っていますが、そういう人たちがずっと林業を続けていく、そして増えていかななくてはいけないと思いますし、増産に繋がっていくようにやっていかなければならないと思っています。そのためには、この地域の林業のサイクルを取り戻すことが大切ではないかと思っています。サイクルを取り戻して行くためには安定雇用が重要で、それが増産に繋がると思います。また、増産のためには間伐から主伐に取り組むということで、県の方でもいろいろ力を入れていただいておりますが、林業のサイクルを取り戻して行くことが、長い目で見たときに増産に繋がる。それと「山武者」など若い人たちの応援をよろしくお願いします。

(局長)

約半数の方に御意見をいただきました。A委員から英語村や若者の活用について御意見がありました。

(知事)

牟岐の英語村について、もう一年というお話しがありました。我々としても一度行った施策については、検証をしないといけない。今、教育委員会で検証をしていますし、参加した学生さんたちからもいろいろと御意見を聞きながら、また実施をした大学生の御意見、また地元の皆

様方の御意見をいただく中で、さらなる進化型を目指していこうと考えています。やるのであれば、あれだけ御協力いただいた牟岐を中心とした海部郡をフィールドとしたいと考えておりますので、できるかぎりはこのエリアでできればと考えております。しっかりと次年度以降これをつなげていければと考えております。

次に若者の話、日本創成会議が2040年までに1900弱の市町村のうち半分がなくなるといふもの。すごいのは県庁所在地である青森、秋田までなくなるといふところがある。そうした中で、若者、特に20代30代の女性の皆さんの動向に着眼して、そこからなくなってしまうといふ話です。我々としても若者の目線で考えるべき。徳島県では県庁の若手中心のプロジェクトチームを立ち上げて、若者を中心に考えていきたい。先ほど委員からの提案で、県南で県西部でそして全体でというお話がありましたので、うちのプロジェクトチームとともにそれぞれの地域、例えばこの南部地域政策総合会議の中に若者クリエイティブ部会など、総計審にあるように、そうした皆さん方に集まっていただく、そして若い皆さん方が「将来ああしたいこうしたい」。今、総合計画の関係で県内3地域に分かれて、いろいろな機会ごとに若い皆さん方に将来の徳島、特に今から30年先、2050年頃どうあるべきか、というところをどんどんやっているところです。是非自分たちの日本、徳島をどうしていくのかということをごんごんおっしゃっていただいて、そして、どうやってつくっていくのかアプローチを言っていていただきますので、行政としてはそれを咀嚼させていただいて、民間や市町村の皆さん方とどう具現化していくのか。ちょうど今、国の流れは、日本創生や地方創生ということで担当大臣を置くという形になりましたので、我々としてもしっかりと提案をまとめて国に提言していきたい。第1弾としては限界集落と言われる高齢者が集落の半分を占める、将来なくなってしまうかもしれないといふ話。この比率がブロックでいうと四国が日本で1番、2番目が中国地方。例えば徳島県一県とらえても日本の平均15.5%、徳島県は35.5%、まさに課題先進地域、こんなチャンスはないだろう、課題解決の。このように、先ほど御紹介のあったサテライトオフィスや農業、林業、特に林業については徹底的に力を入れて、「山武者」の皆さんも出てきていただいた。そうした形で進めていこうと考えています。中国四国の知事と経済界のトップが集まった中四国サミットが9月3日に徳島で行われた。中国四国から処方箋を国に出していこう、あるいは、まとめて送っていこうと考えておりますので、よろしくお願ひします。

(局長)

B委員から移住や空き家対策について、御意見、御質問をいただきました。

(経営企画部長)

移住関係につきましては、県の方でもサテライトオフィスの誘致などに取り組んでいるところですが、特に若い人たちを戦略的に呼び込んでまいりたいと考えております。特にB委員から御指摘のあった点については、なかなか難しい部分で、移住者からの相談でも住居に関する相談が9割近くと圧倒的に多い状況ですが、なかなか対応できていない状況もございますので、団体や市町とも連携しながら進めてまいりたいと考えております。

空き家関係につきましては、移住交流支援センターにおける物件の登録数が、少ないという現状もございますので、今後地域と連携しながら、まずは物件の掘り起こしを含めて取り組んでまいりたい。

(局長)

C委員から地域包括ケアへの支援や海部病院の移転後の利用方法について、御質問いただきました。

(医療政策課)

海部郡におきましては、県立海部病院の移転改築、日和佐病院と由岐病院の統合再編といった大きな流れがございます。こうした流れの中で今年度より新たに病床機能報告制度というのが始まりまして、医療機関から報告された情報を活用して高度急性期から慢性期に至るまでの適切な病床機能の分化がなされた、地域の医療提供体制の将来の目指すべき姿を示す地域医療ビジョンというのを医療計画の一部として策定することになりました。また、本県では高齢指数がピークとなる2020年、海部郡では目前に迫っています2015年になりますが、また、団塊の世代が後期高齢者となる2025年、こういった流れを見据えて、在宅医療介護分野の連携を推進して地域の実情に応じた高齢者が可能な限り住み慣れた地域でその能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるように医療、介護、介護予防そして住まい及び自立した日常生活の支援が、

包括的に確保される体制として地域包括ケアシステムの構築が求められております。医療提供体制、地域包括ケアシステムとも海部郡の実情に応じた体制の整備構築に向けて住民の皆様、医療機関等の関係者ととも十分に協議してまいりたい。また市町村の方々とも協力していかなければなりませんので、本日海部郡の各町に県の職員が医療と介護、両方の職員が協力して出向いておりまして市町村の御意見をうかがっているところでございます。このように連携して進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(病院局)

委員から海部病院について2点御意見をいただきました。まず、海部病院に長期療養型の病床を、とのことでございますが、新海部病院を整備するときに整備方針検討委員会を設けまして、海部病院がどのような方向に向かっていくかについて、御意見をいただきました中で、やはり海部病院につきましては、引き続き急性期の病院として機能を果たしていただきたいとの声を多数いただきましたことから、今は急性期中核病院として整備しております。ただ、委員も御心配されているように高齢化の進展が見込まれておりまして、長期療養や介護サービスが必要になってくると思います。その点については、地域にそれぞれ病院もございまして、民間の介護関連施設もございまして、そういったところと役割分担をどのようにするか、そういうことを十分に検討しながら考えてまいりたい。

次に、跡地利用については、現在のところどうするか決まっておられません。本日町長さんがお越しですので、今後のことについては地元牟岐町の御意向、関係団体の御意見、そして一番は地元の皆さんの声、これらを十分にお聞きしながら、利活用策を検討してまいりたいと思いますので、いろいろと御意見をよろしく申し上げます。

(局長)

D委員から南剣の玄関口としてビジターセンターをと、また、道路関係の御質問がありました。

(保健福祉環境部長)

ビジターセンターにつきましては、剣山国定公園50周年を迎え、これまでの成果を踏まえて次の50周年に向けてのいろいろな取り組みを考えているところでございます。ビジターセンターの設置につきましては、南剣の活性化、広く言えば剣山の活性化のために非常に重要なことだと思います。設置につきましては、いろいろな機会や方法があると思いますが、いずれの方法をとってみましても、設置により、剣山の魅力発信による観光客の誘致、自然保護思想の普及啓発に大変寄与する有効なものであると考えております。自然公園法に基づくビジターセンターという設置の方法があるのですが、これについては、公園区域内における、公園計画に基づく事業施設という定義がございまして、このような面も含めまして、御提案のあった四季美谷温泉あるいはファガスの森高城の活用につきまして、町も含めた関係者の皆様方といろいろな協議を進めながら、今後調査研究を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

(県土整備部長)

長安口ダム周辺の道路計画についてですが、長安口ダムが建設されたのは昭和30年でございますが、この建設に合わせて整備された関連道路も建設後50年経過しております。国道195号のダム関連区間につきましても、2車線あるものの狭い区間があることから、これまでも出合大戸バイパス等を含めまして整備を進め、安全で快適な通行確保に努めてまいりました。委員がおっしゃるのは、出合大戸バイパスまでの区間で、何箇所か狭いところがあるとお話しいたします。この区間でも3箇所程、県の方でも局部的な改良工事に取り組んでいるところでございます。まず第1工区、ダムの上流の1.5kmぐらいのところにあります。そこは山側を切り取る工事を行いまして平成25年9月に完成しております。第2工区、ダムの上流の1kmあまりのところにあります。川上の方に川出しするような拡幅工事を現在進めておりまして、年内に完成するように工事を進めております。さらに、もう少し下になりますが、ダムの上流約800mに第3工区がありまして、約140mの区間で河口側への拡幅を予定しております。現在調査設計を行っておりまして、調査設計が終わり次第、着工する予定としております。

もう一点は、対向車接近表示システムというもので、未改良区間で大型車との対向が困難な見通しの悪い狭隘な道路におきまして、対向車の接近を電光表示板でお知らせするものです。このシステムを1.5車線の道路整備といたしまして、平成18年度から導入しております。御質問の那賀町の沢谷から神山にかけての193号につきましても、沢谷橋の少し上のところで一箇所設置しておりまして、平成20年に運用開始しております。山間部等の未改良区間では対向車と

の走行をスムーズに行い危険を回避することができると考えておまして、御質問いただいた区間についても検討してまいりたい。

(局長)

E委員から新規就農者への更なる支援、F委員からも米価の低下に対する対策などについて、御質問がありました。

(産業交流部長)

新規就農者については、青年新規就農給付金事業などで、いろいろ御支援させていただいておりますが、新規就農者には農業以外からの転出者も多く、農業の基本的な技術が不足している場合も多く見られます。また、新規就農者の中には、地域住民や農業者との交流が少ない場合もあり、新規就農者の支援体制と栽培技術の向上による経営安定が重要になっております。そこで、本年8月に海部青年農業者会を設立いたしまして、会員相互の情報交換や各種支援制度の周知、栽培技術向上のための農業技術や経営研修を実施することにより、新規就農者の経営の安定を図っているところでございます。今後とも新規就農者が安心して農業経営を始められるようしっかり支援してまいりたい。

米価等が下がって非常に厳しい状況の中、ブランド化を進めていく上で、アドバイスする部署はないのか、との御質問でございますが、農業支援センターにおいて、ブランド化を重点課題として取り組んでおります。例えば阿南・那賀地域ではゆずのブランド化、6次産業化をやっております。海部地域におきましては、阿波尾鶏の堆肥を有効活用して、海部エコブランドという形でブランド化を図っております。6次産業化をサポートする機関については、6次化のサポートセンターがありますので、そういったところを活用していただいて、積極的に6次産業化を進めていただいたらと考えております。

(局長)

F委員から岡川、畑田川の改修状況、また、日本女性会議後の取り組みについて御質問がありました。

(県土整備部)

岡川、畑田川の改修についてでございます。岡川、畑田川は、那賀川と桑野川に挟まれて、阿南市を東西に流れる河川でございます。岡川の下流側は桑野川に合流しておまして、その下流合流点から順次改修が進められております。下流から1.4kmの文化橋までの区間につきましては、国により既に改修が終わっており、文化橋から上流に向けて県が整備を進めているところです。今年度中には、国道55号に架かる清水橋までの約1kmの区間を改修する予定でございます。この清水橋から上流にかけましては、約2.4km区間の整備を計画しておまして、現在市道に架かる西方橋までの850mの区間につきましては、設計を進めているところでございます。さらに、岡川上流部に位置する畑田川につきましては、度重なる浸水で非常に地域の皆様方が困っておられると承知しております。この畑田川につきましても約1.8kmの区間につきまして改修の計画がございますが、河川の改修につきましては、下流側から整備を行っていくというのが原則でございます。まずは下流から整備を進め浸水被害の軽減に努めているところでございます。

(労働雇用課)

女性の施策につきまして御説明させていただきます。人口減少による労働力不足に対しまして、最大の潜在力と言われております女性の力が、今後の本県経済の発展の鍵を握るものと認識しております。このため、まずは女性のキャリアアップ支援としまして、とくしま経営塾、平成長久館におきまして能力開発研修を開催、それから県内大学と提携し、育児などの子育てで仕事を離れた方が、仕事に再び就くための支援として再就職支援講座を実施しております。また、本年10月に開催されます、徳島ビジネスチャレンジメッセにおきまして女性の活躍の推進を図るシンポジウムを開催したいと考えております。

また、仕事と家庭の両立、ワークライフバランスの推進についてでございますが、M委員さんにも率先的に御活躍いただいております。ファミリーサポートサービスの全県展開、それから子育てに優しい企業を懸賞するはぐくみ支援企業の認証表彰、それから表彰企業のパネル展といったものを実施しております。さらには、子育て、介護などによって仕事を辞めざるをえないといった状況に対しまして、その解決の一つといたしまして、テレワークの推進を図ってまいりたい

と考えております。

最後に多様な働き方の推進といたしまして、子育てや介護を抱える方々が柔軟な就労形態で働くことができるコールセンター、データセンターなどの情報通信関連産業の全県的な誘致を進めているところでございます。

女性の施策ということで幅広い分野で、いろいろなところに渡るといってもありまして、県内関係の皆様方とも連携して女性が輝く徳島が実現されますよう積極的に取り組んでまいりますので、よろしく申し上げます。

(局長)

G委員から林業サイクルに対する県の取り組みについて御質問がありました。

(産業交流部長)

委員も御存じのように平成23年度から十年後の県産材の消費量を倍増させるような形で次世代林業プロジェクトを展開させていただいているところです。先ほどありましたように事業計画を上回るような実績を上げてまいりました。今後は間伐から主伐へという形で進めていくことを考えておりますが、委員のお話にありましたように、主伐を推進することなしに地域資源の確保を踏まえながら、植栽や間伐といった林業のサイクルを活用した展開が重要になると考えております。また、「山武者」等の活躍を支援しながら、地域の林業が今後ますます発展するように支援してまいりたい。

(局長)

引き続き各委員から発言をお願いします。

(G委員)

国際交流と文化のことでお話しさせていただきます。私たちは日本語教室を行っておりますが、会員の方から「こんなに安く日本語を教えるのか。」と聞かれることがあります。これは、地域に向かって対策しているわけではなく、地域に住んでいる外国人の方、いろいろな方がいらっしゃるのですが、私たちが、その国の言葉を覚える努力をせずに、その方たちに日本語を覚えてもらって円滑なコミュニケーションを確保し、安全な地域をつくるための日本語教室です。どうか温かい目で見守ってほしいと思います。県南では、阿南が一番南の端で日本語教室をやっておりますので、該当の方がいらっしゃれば、どうぞお越してください。

次に、防災訓練を行うときに外国の方も参加されますが、伝言ゲームなどをしたらどうかと思います。英語が通じないこともあります。また、他県での報告ですが、生活習慣が違っていると「絵」の理解が一致しないということがあります。一番通じるのは、易しい日本語です。私たち日本人が簡単な日本語を話すことは、結構難しいところですが、難しいということを経験するのもおもしろいことです。

託児や子育てのお話しが出たので申し上げます。文化活動に参加されるお母さんなどの若い人のための託児コーナーや身支度室を開設しています。これは夢ホールができてからなのですが、阿南市の御理解をいただいて、市の事業として行っております。たぶん県南で一番最初に行った身支度室だと思います。コンサートや講演会に参加される方々の子どもたちを預かって、お母さんたちはコンサートで楽しい思いをし、子どもたちは託児室で楽しい思いをするというのを目指しています。これがもっと広がっていけばいいのと、もう少しぶ厚くしていきたいと思っています。阿南でこのようなコンサートに行くと、子どもたちを預かってくれるところがあるので、若い人たちが、阿南に住んでみたいと言ってもらったことがありますので、是非進めていきたいと考えております。

それから、文化についてですが、音楽にしばってお話ししたいと思います。最近音楽関係者の間で言われることなのですが、クラシックの入門編というのでしょうか、そういう演奏会が増えて、世界レベルの演奏家をじっくり聞くことがなくなったよねと聞きます。クラシックの入門編では、よく知られた名曲が演奏されます。例えば全部聞くと1時間かかる交響曲の一部だけを演奏することがあります。裏返して言えば、どこに行っても同じともいえます。なんだか物足りない。もう一步先進的な芸術を紹介する仕事は、県や公的な機関の役割ではないかと思います。それと、気安い音楽、わかりやすい音楽を簡単に咀嚼してしまうと、柔らかいものばかりを食べていると顎が退化してしまうように、わかりやすい音楽ばかり聞いていると、「じっくり」「がっつり」聞く耳が退化してしまうのではないかと思います。やさしく聞かせるものは、聞く人の力を軽んじていないのかなと。とても易しく解説してしまうということは、作曲者の力をも軽ん

じているのではないのかなと思います。何か分からないけど「すごかった」と思うこと、きっと、芸術は「すごかった」と心に残ると思いますし、心に残るからこそ芸術たり得るのだと思います。芸術の力を信じて先進的な芸術を紹介していくのもいいかと思います。商業主義的なものでない芸術に触れる機会がもっと増えたらいいと思います。

(I 委員)

今朝飛行機でやってきました。空港のロビーに旅行会社が迎えに来ていました。旅行者は50歳から70歳ぐらいまでの方。阿波おどり空港は、四国の玄関口としてもものすごくきれいになりました。旅行者も増えてきました。でも、行き先を見ると西阿波に向かっていました。その後、四万十川に。これを是非、四国の右下に向ける努力を県南の皆さんプラス高知県の室戸などと一緒にできないものか。日本だけでなく海外からも呼ぶことのできるすばらしい地域を我々は持っていると思います。あの空港を使って我々が主導権を握って、そういう商品をつくり、営業も他県と一緒にやっていったらどうでしょうか。

それと、漁業者の高齢化がどんどん進んでいます。若い人に漁業をしてもらうにはどうしたらいいか。農業では進んでいるが、水産物のブランド化を進めて、強力なブランドを作る。ブランドを作るために重要なのは流通です。デパートなどで一ヶ月間ブランドを告知して、全国に知らせていく。そういうシステムは漁師さんだけでは無理です。漁業組合だけでも無理です。県全体としてやってもらって、なんとかブランドを作ってもらいたい。

(J 委員)

水産物のブランド化については、個人もそうですが、海部郡の各漁協の足並みがそろってない。魚の扱いや規格、流通先に関してもそろっていないので、この足並みをそろえることが第一ではないかと思います。その仲立ちを県の方でお願いしたい。このブランドが広まっていけば、我々を取り巻く業界も上昇していくのではないかと思います。徳島では農産物のブランドは、すごく多いですが、水産関係のブランドは数えるほどしかないと思います。徳島にはすごくおいしい魚介類がたくさんありますので、もう少しブランド化を推進していただいて、広報活動をお願いしたい。また、その付加価値を上げていくために6次産業化、農商工連携があるのですが、我が社でも農商工連携による商品開発をやっているのですが、その中で科学的な検証が必要になります。味や製法、賞味期限の設定、そのような部分を今回工業技術センターにお願いしているのですが、先日県民局美波庁舎で機能強化会議というのがあったのですが、是非そちらで、このようなことができれば、県南に住むものとしては、すごく便利で、水産のことにに関しては、そこに行けばすべてがわかるように機能強化していただければ、ありがたいと思います。

また、観光漁業、体験漁業というものが、これから漁業に関して必要になると思います。また体験したことによって職業体験や食育の部分にスポットを当てることになるので、県の方でもPRをお願いしたいと思います。

(K 委員)

伊島芸術祭については、関係各位の御協力により無事開催できましたことにお礼申し上げます。後半は台風の影響を受けたのですが、前半は台湾や韓国からも来てくれました。

一般の台風により、加茂谷中学が全国ニュースで放送されるくらいの浸水被害を受け、水害のある町という、嫌なレッテルがついてしまったのですが、関係各位の機敏な対応に対して感謝しております。本当に、あっという間に水位が上がったのですが、周囲からはダムの放水の仕方をもう一度検証していただきたいという声があります。テレビで今回の長安ロダムの放流は間違いではなかったということも聞いておりますが、80歳以上の方が、昔ダムがなかったときはこんなにもひどくなかったと言っていました。長安ロダムの役割をもう一度検証していただいて、ダムがないときより悪くならないようお願いしたい。

それと、防災無線が全く聞こえませんでした。周囲の若い子が携帯電話を見て、避難勧告が出たことを知らせてくれて、避難したということがありました。防災無線が機能を果たしていないので見直しをお願いします。

海部郡の方が自宅に引いている情報の端末が、今回は停電で使えなかったと言っていました。防災情報の伝達についてお願いしたい。

無堤防地区である加茂に、堤防ができる準備をしていただいています。吉井、熊谷、楠根にはポンプを設置していただいて最近被害はなかったのですが、今回は堤防から水があふれる可能性があるのでポンプを使うなという指示が出て、ポンプが止められました。加茂の堤防ができたら下流はもっと水かさが増えるので、この計画をもう一度全体的に絵を描いていただいて、上流に

堤防ができれば下流はどうなるかということを検討しつつ、平行して工事に取りかかっていたらありがたいと地域の方から声が上がっていますので発表させていただきました。

それと、中学校が使えなくて、18日から工事にかかってくれると聞いていますが、事前着工ができるとお聞きしました。学校関係は事前調査なしに着工できるそうなので、よろしくお願いします。

それと、生活道路が浸水して使えなくなるとのお話しに関連して、交差点の下に水路を作ったら大雨の時に浸水しないのではないかと考えています。

道路整備が進んで、加茂谷地区は富岡に行くより徳島に行く方が早くなりました。でも、水害のある町、水に浸かる町ということで、若者が家を建てません。みんな出て行ってしまいます。人口減少に歯止めをかけるためにも工事に力を入れていただきたいと思います。

(L委員)

皆さんから台風の話が出ましたが、私は自然が警告しているのではないかと思います。地球温暖化をストップしないと大変なことになる。1℃上がるだけで大変なことがおこる。もっと危機感を持って、一人一人が少しのことでいいので取り組めば、1億人なら1億の取り組みになります。

それと、サッカー日本代表のアギーレ監督は、選手が一試合にボールを持っているのは2分だと、その2分以外に監督は何を見ているか。いろんな行動や考え方を見てこの選手をどこに登用するか考えているようなお話を聞きました。企業でもそうでしょうが、私たちもいろいろなことを山の中で、林業で考えていかないと、一つだけではもう生きていけないと思いますので、いろいろなことを総合的に考えて林業をやっていききたい。

地域の高齢者でも元気な方がたくさんいらっしゃいます。いろいろな知恵を持っているので、その知恵を借りながら、また活かしていく場所が必要ではないかと思います。林業関係者もそうでない方も元気を届けることで地域が元気を取り戻して、活性化につながるのではないかと思います。

たけのこの価格が低下してから、放置林がだんだん増えて、すごいことになると心配していたのが現実になりました。放置竹林対策があれば教えてください。

(局長)

H委員から在住外国人を対象にした防災訓練について、御提案がありました。

また、文化振興について入門編だけではなく「がっつりと」レベルの高いものをとのお話をいただきました。

(とくしま文化振興課)

20世紀は物の時代でしたが、21世紀は精神の世紀、文化の世紀と言われているように心の豊かさや精神的な充実を求める傾向が、これまで以上に強くなってきております。文化は人々にたのしさや感動、やすらぎや生きがいをもたらす、人生を豊かにする上で極めて重要であるとともに、ずっと住み続けたいと思える、魅力ある地域づくりにおいても、大きな役割を果たすものであると考えております。徳島県では、平成24年度に全国初となる2度目の国民文化祭を開催いたしました。この2度にわたる国民文化祭により、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーベンの第九、この四大モチーフをはじめとする阿波文化に磨きをかけるとともに、全国発信を行ったところです。また、県内全市町村において、文化振興の推進が図られるとともに、文化の力を活用したまちづくりへの取り組みが進んだこと、文化団体やNPOなど、次世代後継者の育成が図られたこと、文化力を活用するためのノウハウが蓄積されたことといった効果が得られたと考えております。県では2度にわたる国民文化祭の成果をさらに継続発展させるために文化の力でまちづくりを理念として、地域で育んだ文化資源を活用した取り組みにより、県民の誇りや心豊かな暮らしを創出するとともに、国内外との交流促進による地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。具体的な事業としましては、文化振興の推進エンジンである、文化立県とくしま推進会議による農村舞台を拠点とした地域活性化事業など阿波文化を地域の活性化に繋げる事業、それから、クラシック、ジャズ、邦楽などの音楽文化が息づくまちづくり、文化の力によるまちづくりに果敢に挑戦する市町村や文化団体への支援に取り組み、さらなる文化振興や次世代の育成を図るとともに、県民の文化活動の発表の場である徳島県民文化祭を、県内外からの参加の場を作ることなど一層充実させてまいりたいと考えております。ただいまH委員がおっしゃった一流の文化芸術に触れる機会と申しますのは、例えば県でもとくしま国民文化祭記念管弦楽団、通称徳島記念オーケストラによります演奏。これですと7月13日にクラシック

音楽に親しむためのとくしま記念オーケストラ演奏会をむらさきホールで行いました。また、南部圏域では11月16日に10周年記念コンサートを行ってまいります。また、昨年10月13日ににぎわい列車、阿佐海岸鉄道を利用して穴喰まで行ってまいりました。このような音楽の取り組みのほか、那賀町の農村舞台公演、9月28日に北川舞台公演がございます、また、牟岐町のアート展、伊島の芸術祭、現在も開催中ですが阿南市富岡のまちなみ芸術祭、三好市ではマチトソラ芸術祭、11月11日から実施いたします。文化というものは、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、美術、文芸など多岐にわたるものでございますが、委員の御意見を参考にさせていただきますながら、今後も本県の文化振興に取り組んでまいりたいと考えております。

(局長)

I委員から四国の右下さらに高知と連携し観光交流を進めてはどうかとの御意見。また、J委員から水産物のブランド化について、御意見がありましたので、お願いします。

(産業交流部長)

今年は室戸阿南海岸国定公園が6月1日に指定50周年を迎えました。県南のみならず高知県の東洋町や室戸市と一緒に取り組みをしていこうと協議会を開催するとともに、スタンプラリーを実施しております。また、高知県と連携しながら「るるぶ」の特別編集で徳島県の東南部を作成して、関西をはじめ、旅行者等に配布するなど誘客促進に取り組んでおります。来年は、高知県東部で高知東部博が開催を予定されており、四国の右下への誘客が期待されますので、今後とも新たな商品作りに取り組みながら、できることを探ってまいります。

魚価が低迷する中で、ブランド化については、平成17年度からブランド戦略という形で展開しておりまして、水産物につきましては、8品目、南部圏域では、あおりいかやアワビを中心にブランド化に力を入れてまいりました。委員からお話しのあったように、規格の統一など重要なことがあると思いますので、平成25年度に海部郡内の12漁協が一緒になって徳島海部水産物品質画一協議会を設立いたしまして、昨年度は冷凍のあおりいかの統一規格の策定とか試験の収穫とか、PRのための統一ロゴの作成、いろいろな取り組みを進めております。今後とも魚種を増やすなどブランド化を積極的に推進してまいりたいと考えております。

J委員から水産研究所美波庁舎の機能強化について、御意見をいただきました。今後はブランドの差別化を図って、ブランドの確立ができるように取り組んでまいりたいと考えております。

(局長)

J委員から漁業を活用した体験型観光について、御意見がありました。

(産業交流部長)

県南部は、グリーン・ブルーツーリズムということで、体験型の観光を売り物にしております。美波町ではうみがめマリンクルーズ、牟岐町では、よくばり体験協議会が中心となって取り組みをしておりますので、引き続き連携しながら進めてまいりたい。

(局長)

K委員から今回の台風被害について、御意見をいただいております。

(県土整備部)

8月の台風11号12号により大きな浸水被害がありました。8月8日から10日にかけての台風11号による那賀川の水害につきましては、今回非常に大きな雨が、那賀川流域に継続して降ったということで、那賀川の流量につきましては、速報値ですが、古庄地区で9500m³/秒ということで、これは戦後の流量としては、最大規模であると推計されている状況です。このため、阿南市における那賀川流域では、床上、床下合わせて約400戸という、これも最終値ではありませんが、大きな被害が発生したところです。このように那賀川において甚大な浸水被害が発生したことから県におきましては、国と連携しまして、洪水の痕跡調査を行いまして、河川の水位や流量などの検証作業に取り組んでいるところでございます。加茂谷中学がある加茂地区につきましては、国が本川を管理している、また、支川の加茂谷川につきましては、県が管理しているということで、国と県が協調して築堤等の設計から進めていかなければならないということで、現在国及び県におきまして事業着手に向けた準備を行っているところでございます。

それと、ダムのお話しをいただきました。但し書き操作とは、長安口ダムには洪水を調節する機能がございますが、流量があまりにも大きくなってきたときには、入ってきた水とほぼ

同じ水量を放流するというものです。ダムを管理している国土交通省から聞いているところでは、ピークの流入量が、戦後最大の5700tあまりで、放流量は、これより少し少ない量であった。入ってきた以上の放流量ではなかったと思います。大きな雨が降って水害が起きたということで、今後の出水に対して国、県でどのように対応するか検討する「出水対応を検討する会」を8月末に阿南市で開催しております。この会には、学識者と行政機関と河川管理者が参加いたしまして、今回の雨の降り方がどのように洪水を起こしたのか、あるいはダム操作について、さらに情報の伝達、こういったものについて、今後検証を進めていくことにしております。

道路の下に排水をためる機能について、大都市では地下に水を一時的に貯留して、浸水被害を低減させようという事業が進められており運用されているところもあるようです。阿南市や那賀町で、こういった方法が適切かどうか十分に検証していく必要があると思いますので、いただきました御意見については、河川管理者としても研究していきたいと考えております。

(阿南市長)

吉井町には熊谷川樋門がございますが、樋門の管理につきましては、専門的な経験則と知恵で行っているところでございます。私自身は水の問題には素人でございますが、検証はしなくてはなりません、今後いろいろなご意見等をお聞きしながら進めてまいりたいと思います。

先般の台風被害では、加茂谷中学校の校長先生以下教職員の方々が三日まい晩不眠不休でよく頑張ってくださいました。政府調査官を受け入れたときもほとんど寝てない状況で、現状を校長が説明をして、副大臣に大変納得をしていただきました。生徒も復旧作業等を一生懸命やりまして、昨日再出発を兼ねて文化祭を行いました。

それから、防災無線については、風向きや雨の強さが影響して聞こえない場合がございますが、現在、高性能化に向けて阿南市の沿岸部から順次工事を進めているところでございます。

(局長)

Ｌ委員から林業に関するお話と、放置竹林対策についてお話がありました。一点目は、御提言ということでよろしいでしょうか。それでは、放置竹林対策について、お願いします。

(産業交流部長)

放置竹林対策でございますが、竹林はその大部分が孟宗竹で、周辺の広葉樹や人工林に侵入して樹木を枯死させたり、破壊していきます。森林の機能が失われていくわけです。平成22年度から県南の竹資源循環利用実証事業を実施し、竹を南部圏域の重要な資源と位置づけて地域内で循環利用するような仕組みを作るとして、いろいろな取り組みを行っているところです。モデル林を活用して作業の解説や竹の発生方法などの研究、竹チップを竹林内で利用する実証実験とかいろいろな取り組みをやりまして低コストで崩れにくい道づくりのポイントや伐採や搬出を重視する列状間伐の手法とか、いろいろな手法について、その内容をまとめて関係者に配布したり、啓発に努めております。

(局長)

続きまして各市長、町長さんから御発言をお願いします。

(海陽町長)

先般の台風12号による集中豪雨により、知事には早速海陽町まで足を運んでいただき、被災現場をつぶさに見ていただき、本当にありがとうございます。また、間髪入れずに生活再建策や農業に対する支援策、緊急対策等を次々と講じていただきまして、ありがとうございます。

しかし、海陽町の中小企業者、特に商工関係者に対する支援策が、今のところありません。災害救助法が適用された那賀町と同様には、なかなかできないとは思いますが、どうか中小企業者に対する中小企業振興資金、緊急災害特別資金の適用を海陽町でも受けることができないものかと考えておりますので、是非知事の御英断をお願いしたいと思っております。

(知事)

今回大きく分けて、床上浸水などに対する生活再建と農業再建に対しては、無利子融資制度ということで融資制度があるわけです。それと県単の補助制度。これは激甚指定で農業が対象になります。国が10分の3さらに負担するので10分の7の補助率になる。では、商工業者に対してはどうなるかと言いますと、緊急災害対策資金という形で8月14日の段階で、利率と保証料率の両方があるわけですが、運転資金でも、設備投資でも、5年、10年それぞれですが、1.

7%、0.2%合わせて1.9%という低利の融資をさせていただいております。これについて、今、御紹介がありましたように、災害救助法の適用があった那賀町については、これを全部無利子にする。例えば、農業については金融の関係は負担がなしとなります。また生活再建につきましては、県が2分の1、市町村が4分の1の補助に対して、普通は4分の1の負担はしていただくのですが、このところを県が肩代わりをしましょうと。ただ、ここは、阿南市または海陽町につきましては、市長さん町長さんの御判断で、その分は市または町で、災害救助法の適用はないのだけれど、那賀町と同じにしよう、こうした形になりました。そこで、今お話しのある商工事業者については、対策がないということで、我々としても出前相談にまいりまして、全県下でお話を聞いたところ、やはり農業者や一般に床上浸水をした人と比べて、商工事業者に対しては、ちょっと厳しいという声は確かに多くありました。ということになると、例えば、那賀町は緊急災害特別対策事業という形で8月27日に制度を作らせていただきました。その部分を今回の生活再建のように、この部分を市町で埋めていただいた部分がありますので、その利息の部分を仮に無利子にすることについて、地元の方では是非市町がやろうとおっしゃるのであれば我々としてもしっかり御支援申し上げようと考えております。是非、また御意見をお聞かせいただいて新しい制度をどういう形で打ち出すのか。9月定例県議会がそう遠くありませんので、それまでの間には詰めて、予算の中に盛り込んでいきたい。是非お持ち帰りいただいて、検討をお願いします。

(海陽町長)

検討させていただきます。

(牟岐町長)

まず英語村ですが、知事をはじめ関係者の皆様に熱心に御支援いただき誠にありがとうございました。この宣伝効果は確かにすごいです。先日も新聞の電子版を見ていたらトップに載っていました。見出しは「人口5千人に満たない牟岐町で」という寂しいものでしたが、なんとか牟岐町も「がんばらないかん」と思った次第です。

先ほど消滅市町村のお話がありました。市町村が消滅する前に、まず集落がどんどん消滅すると思います。この消滅する集落を、何とか皆様のお力添えをいただいて残していきたい。

残していくにしても、地元で産業がなければ残していけないと思います。先ほどB委員さんが、来ていただける方は職を持っていると言っておられましたが、やはり、地域の産業を残した上で来ていただきたい。地域に産業がないのに残っていこうという方が虫がいい気もいたしますので、これから産業振興に向けて、まずは一次産業に取り組んでいかなければならないと思っています。

この9月から牟岐町でも、地域興し協力隊を雇えるようになりました。昨年4月に統合して廃校になりました河内小学校、ここを拠点にして活動していただこうと思っています。できましたら飲食店などにも入っていただいて、一般の方にも利用していただける形で営業してまいりたいと考えております。

(美波町長)

私からは、B委員からの御意見について、美波町の取り組みを方針を述べたいと思います。県にも支援をしていただくのですが、町でも移住交流に係る空き家の改修については、10年近く定住対策ということで補助制度を作っているところですが、委員のおっしゃる、お試しやお盆や同窓会で帰ってくる時に使うというような空き家の有効活用についても、今後町の方でも政策的に支援できるようなことがないかと思っていますので、お話を聞きながら進めていきたいと思っています。

(阿南市長)

A委員がおっしゃった人口減少については、少し厳しいとは思いますが、真剣に考えていかなければならないと思います。阿南市も人口が減っております。海部郡も室戸市も同様です。

阿南市には、アピカとフジグランという大きなスーパーがございしますが、その真ん中に新しいスーパーができました。最初に関係者が私のところにおいでた時に、「大きなスーパーの真ん中に建設して採算が合うのですか」とお尋ねしましたが、「大丈夫です」と豪語されるのです。相手を潰すのではなく、商業圏として、まだいけるとお話されました。また、別の話ですが、大きなホテルチェーンが阿南に進出したいとの申し出があり、市が紹介した土地を検討しております。それも、「人口が減っているのに大丈夫なのですか」とお尋ねをしました。それは、「室戸市や東洋町までを含めた一つの拠点を作りたい」とのお話でした。

阿南市だけではなく海部郡，室戸市まで四国で2番目に人口が減ってまいります。95市町村の中で2番目に早く減ることになっておりますので，室戸市も東洋町も全部含めて広域的に検討された方がよいのではないかと思います。知事さんには言いにくいので，A委員にお願いいたしまして，私の発言とさせていただきます。

(局長)

那賀町長さんは御欠席ですが，那賀町さんにか御発言はございますか。

(那賀町)

本来であれば町長が出席して御挨拶を申し上げるところですが，本日は議会の開会日で，午後から災害対策特別委員会に出席しておりますので，本会に出席することができませんので，町長に代わりまして，一言お礼を申し上げます。

一般の台風11号による災害の復旧におきましては，徳島県をはじめ皆様にも多大なる御支援を賜りまして誠にありがとうございます。おかげをもちまして復旧作業も順調に進みまして，町も活気を取り戻しつつあります。しかしながら，各家庭においては，家屋の修復が進まず，知人宅や親類宅に身を寄せている被災者もおり，依然深い爪痕を残しております。現在町といたしましては，町民の平穏な日常生活を一日も早く取り戻すべく施策を進めているところでございます。今後南部圏域の事業等におきまして，御迷惑をおかけすることがあろうかとは思いますが，皆様にも御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

(知事)

多岐にわたりまして，皆様方から御提案をいただきましてありがとうございました。今日いただきました御意見につきましては，今後新しい計画にしっかりと反映させてまいりたい。また，課題解決といった観点で，ちょうど今，人口減少問題，地方創生大臣を置くという時代になりましたので，しっかりと我々としても国にも提言していきたいと考えております。

そこで少し申し上げておきたいのは，F委員から昨年日本女性会議の後，県はどのように考えているのかとありました。実は今年，徳島県としては，第30回の記念大会しかも政令市，県庁所在地ではない阿南市でやるという流れを活かしていこうと，女性の活躍元年と位置づけをさせていただき，様々なフォーラムや，先ほどテレワークの話もありましたが，働く女性応援会議を立ち上げるといった，いろいろな形でアフターケアといえますか，さらに広げていこうと。そうなりますと今度は国が，女性の活用をとなくなってしまったので，そうした形でしっかりと繋げていければと考えています。

もう一点，H委員が言われた，音楽の中でも分かりやすいものをやりすぎているのではないかと，もう少し「がっつり」したものを。実はA委員が言われた英語の国内留学と同じ話なのです。昔は，海外留学にチャレンジするには，ものすごくお金がかかった。ところが，だんだん簡単になって，逆に言うと国内留学が増えていきます。駅前留学というものもありました。こういった，よりリスクをとらない形になってきた。でも，それによって何が起こるかと言うと，いい面としては，裾野が広がること，ただ，言われたように本格的なところをどうするかという課題が残る。例えば先ほどのコンサートのお話で，いいところだけを聞く，映画やテレビの宣伝などでよく使う，そういうところだけ聞くのではなく，「がっつり」聞くことによって，どこで拍手したらいいのかや，逆に一般の人にとっては面倒くさい，途中で拍手したりすると嫌な顔をされたり，ということがわかる。今，県では入門コンサートとして徳島記念オーケストラ，音楽監督の秋山先生に指揮をしていただき，文理大学のむらさきホールで今回3回目になる。秋山先生からも時には全部聞いてもらおうと。モーツァルトの交響曲を四楽章きっちり。

また，そういう動きが広がったのは，県の裾野を広げる動きに呼応してくれているとも思っています。先ほどの留学と同じで多くの人たちが親しみやすい，その中からより関心を持った人が，チャレンジ精神を持ってきた。そうしたものについても，我々としては提供をしていこうと考えております。夢ホールでも入門編とがっつり編とを両方やっていただければいいと思います。

今日は，皆様方からいただいた御意見をしっかりと咀嚼をさせていただいて，施策に活かしていきたいと考えております。本当にありがとうございました。